

「外国人患者の受け入れ状況～大阪府の国際化に伴う看護の現状～」調査

1. 調査目的と方法

1) 目的

この調査は大阪府の国際化に伴い、外国人患者の医療ニーズに看護も対応すべく、その実態を調査するものである。

2) 方法

(1) 調査対象

大阪府内の病院（523施設）の看護管理者

(2) 実施期間

平成29年9月6日（水）から平成29年9月20日（水）

(3) アンケートの手法

記述式、郵送によるアンケートの配送と返送

2. 実態調査の結果

321施設の看護管理者（回収率61.3%）から回答が得られた。

1) 外国人患者の受け入れについて

(1) 外国人患者受け入れの有無

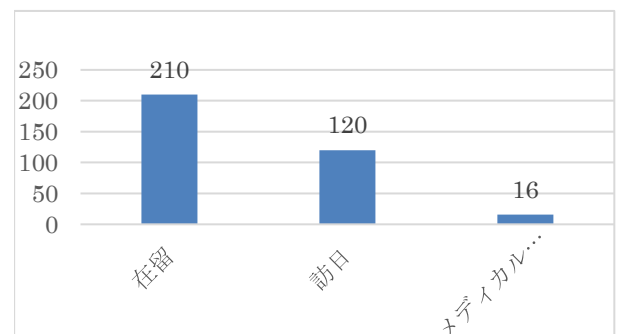
受け入れの有無	施設数
はい	242
いいえ	79
総計	321



施設へ受療した外国人の内訳（複数回答可）

施設数／内訳	在留外国人	来日中での疾病治療	メディカルツーリズム
施設数	210	120	16

図2 施設へ受診した外国人の内訳

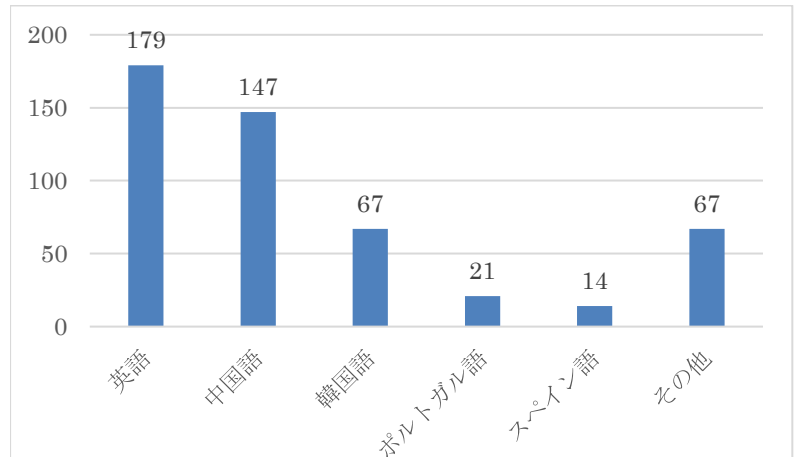


外国人患者を受け入れた施設は 242 件で、全回答数の 75%を占めた (図 1)。在留外国人 210 件 (87%) が最も多く病院を訪れていた。来日中での疾病治療を目的とした受診は 120 件 (50%) で、不慮の怪我・病气等に罹患した訪日外国人を受け入れている病院が半数を占めることもわかった (図 2)。

2) 対応した言語と通訳したのは誰か
どの言語で対応したか (複数回答可)

対応した言語	件数
英語	179
中国語	147
韓国語	67
ポルトガル語	21
スペイン語	14
その他	67
総計	495

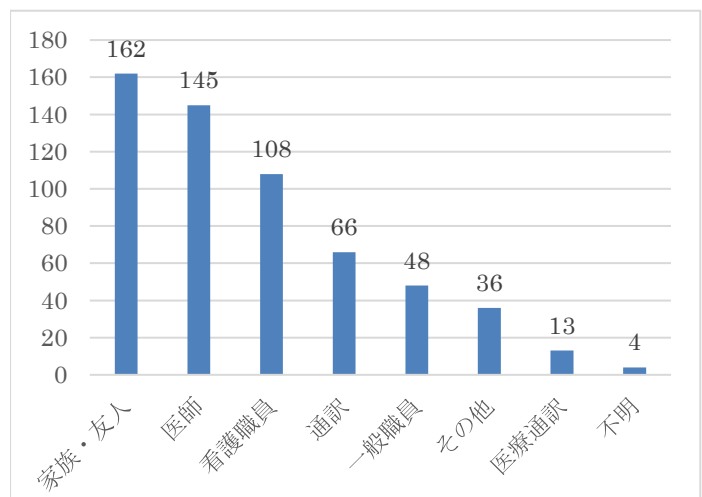
図 3 施設側で対応した言語 (件)



対応した通訳者 (複数回答可)

対応した通訳者	件数
患者家族・友人	162
医師	145
看護職員	108
通訳	66
一般職員	48
その他	36
医療通訳	13
不明	4
総計	582

図 4 施設内で対応した通訳者 (件)



英語での対応が 179 件 (74%)、中国語 147 件 (61%)、韓国語 67 件 (28%) であった。施設内で対応した通訳者は家族・友人 162 件 (67%)、医師 145 件 (60%)、看護職員 108 件 (45%) であった。

3) 外国人患者への対応の必要性と受け入れの課題

外国人対応の必要性

必要性の有無	件数
はい	255
いいえ	59
無回答	7
総計	321

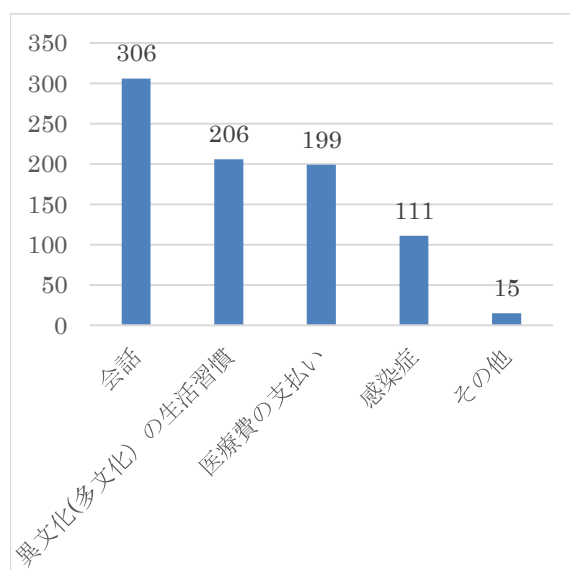
図5 対応の必要性



外国人患者 受け入れの課題（複数回答可）

課題	件数
会話	306
異文化（多文化）の生活習慣	206
医療費の支払い	199
感染症	111
その他	15
総計	837

図6 受け入れの課題（件）



外国人患者への対応の必要性については255件（80%）と多くの施設が必要性を感じていた（図5）。

外国人患者の受け入れの課題は、会話306件（95%）が最も多く、異文化（多文化）の生活習慣206件（64%）、医療費の支払い199件（62%）が上位を占めた（図6）。

「異文化（多文化）の生活習慣」における課題には食事、夜間対応、母国でストマ対応の施設がない、死亡時の埋葬方法等の意見があった。

4) 海外経験のある看護職について

*海外経験とは海外で3か月以上、留学（長期・短期）、ワーキングホリデー、バックパッカー（低予算での個人旅行）、JICA、医療ボランティアや看護実践等の経験を意味する。

(1) 海外経験のある看護職が属する施設数と海外経験のある看護職の総数

看護職が属する施設数	看護職の総数（人）
292	343

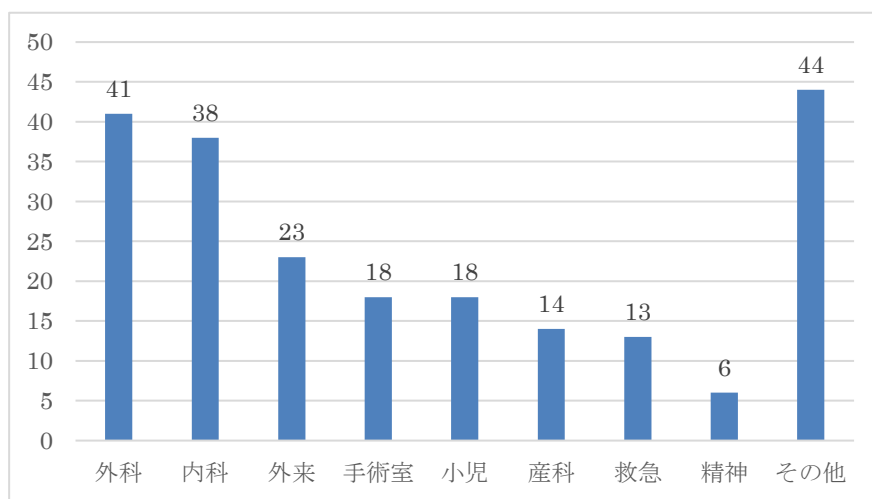
回答を得た 292 施設に総計 343 名の海外経験のある看護職が存在していた。

自由記載の意見には看護管理者から「海外経験のある看護職員数」「看護職員の言語能力を把握していない」というコメントがあった。大阪府内における海外経験のある看護職員数は把握していない。

(2) 海外経験のある看護職の現在の配属部署（複数回答可）

配属先	外科	内科	外来	手術室	小児	産科	救急	精神	その他	総計
件数	41	38	23	18	18	14	13	6	44	215

図 7 配属部署（件）

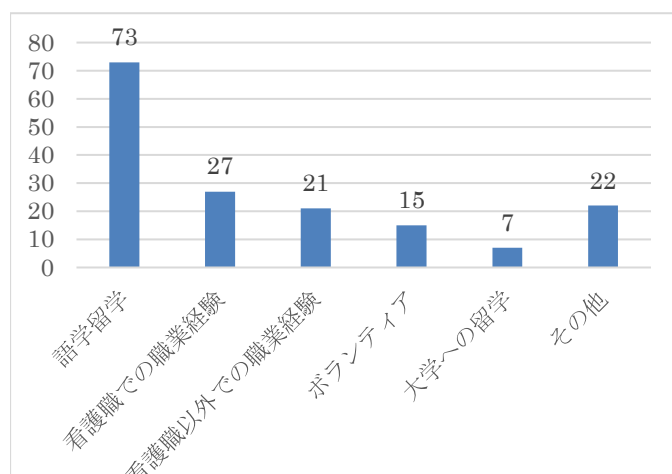


その他を除き、外科 41 件（14%）、内科 38 件（13%）への配属先が上位であった。次いで外来 23 件（8%）、小児科・手術室各 18 件（6%）、産科 14 件（5%）、救急 13 件（4%）、精神 6 件（2%）の順に多かった（図 7）。

(3) 看護職の海外経験の内容 (複数回答可)

図 8 海外経験の内容 (人)

海外経験の内容	人
語学留学	73
看護職での職業経験	27
看護職以外での職業経験	21
ボランティア	15
大学への留学	7
その他	22
総計	165

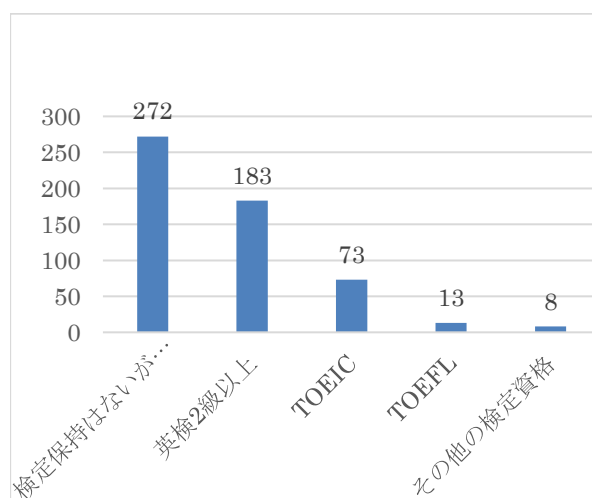


海外経験の内容は語学留学 73 人 (25%) が最も多く、看護職での職業経験は 27 人 (9%)、看護職以外での職業経験 21 人 (7%) と海外での就労経験者も 8% 前後みられた (図 8)。

(4) 看護職のうち、外国語検定保持者 (複数回答可)

図 9 検定保持者 (人)

語学検定資格の内容	保持者 (人)
検定保持はないが外国語可	272
英検 2 級以上	183
TOEIC	73
TOEFL	13
その他の検定資格	8
総計	549

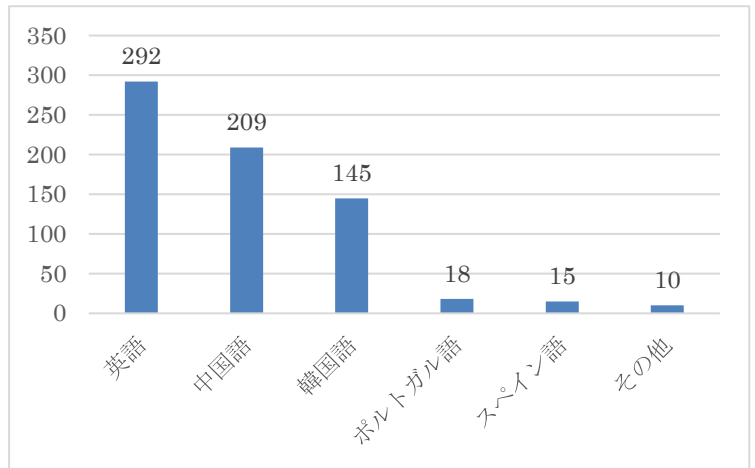


検定保持はないが外国語対応可が 272 人 (93%)、英検 2 級以上が 183 人 (63%) で、多(他)言語で対応できるスキルを持った看護師が大阪府内に多くいることがわかった。

(5) 今後、看護職で対応を要する他言語（複数回答可）

図 10 外国人に対応を要する言語

対応を要する言語	施設数
英語	292
中国語	209
韓国語	145
ポルトガル語	18
スペイン語	15
その他	10
総計	689



今後、看護職で対応を要する言語は英語 292 件（91%）、中国語 209 件（65%）、韓国語 145 件（45%）の順に上位を占めた（図 10）。

3. まとめ

今回の実態調査で、大阪府内の多くの病院で外国人患者を受け入れているのがわかった。その一方で、外国人患者の医療ニーズへ対応するには多くの課題（言語、多文化、医療費の支払い、対応等）や不安（主に多言語での対応、医療費の未払い）を抱えていることもわかった。

海外経験や言語能力をもった看護職は貴重な人材で、資格（検定）をもっていなくても外国語対応が可能な看護職も多くいることがわかった。ただし、看護職本人への質問ではないことから、潜在的に海外経験や英語をはじめとした言語能力をもつ看護職の人数は不確かである。配属先で海外経験を活かした業務が行えているかも不確かである。言語能力をキャリアとして活かした体制は確立されておらず、潜在能力が活用できていない現状もある。

今回の調査で大阪府の国際化に伴い、外国人患者への医療・看護ニーズに対し、多（他）言語能力や経験を活かし、「日本の質の高い看護」を提供する体制づくりの必要性が浮き彫りになった。

外国人患者が安心・安全に医療・看護が受けられるよう、医療従事者が安心・安全に質の高い医療・看護を提供する体制の構築に向け、異文化（多文化）を理解し、多（他）言語でかかわるための知識・スキルを持つ看護職の活用や育成が今後、重要な課題であることが明らかになった。